

南ガス回廊の拡張計画(第2報)

現在のロシア・ウクライナ情勢(対露経済制裁)を受け、欧州各国は天然ガス調達先の多角化の必要に迫られており、アゼルバイジャンからのガス供給増加への期待が寄せられています。以下、アゼルバイジャンから欧州へのガス供給ルートである「南ガス回廊」の概要、輸送容量と拡張計画について報告します。

1. 2021年2月19日付経済トピック「南ガス回廊の拡張計画」で報告しましたとおり、アゼルバイジャン産の天然ガスは、「南ガス回廊」を通じて、トルコ及び欧州へ輸出されています。「南ガス回廊」は、南コーカサスパイプライン(アゼルバイジャン・ジョージア・トルコ、980km)、TANAP(トルコ国内、1802km)、TAP(ギリシャ・アルバニア・イタリア、878km)から成ります。2020 年末より欧州向けガス輸出が始まりました。
2. 「南ガス回廊」の輸送容量と拡張計画について、公開情報によれば次のとおりです。
 - ①南コーカサスパイプライン:年間輸送容量 310 億 m^3 、拡張計画なし
 - ②TANAP:年間輸送容量 162 億 m^3 、拡張計画 240~310 億 m^3 (4~5 年後)
 - ③TAP:年間輸送容量 100 億 m^3 、拡張計画 200 億 m^3 (4~5 年後)
3. なお、本年6月には、TAP とギリシャ・ブルガリア大陸間パイプライン(IGB)が接続され、アゼルバイジャンからブルガリア向けに年間 10~30 億 m^3 のガス輸出が予定されています。将来的には、トルクメニスタンとの共同探査・開発が合意された、カスピ海沖のドストルック(友好)鉱区産ガスを始め、近隣地域からの欧州向けガス輸送ルートとして、「南ガス回廊」の更なる拡張の可能性もあります。
4. また、「南ガス回廊」は、脱炭素化に向けた取組の中で、欧州向けグリーン水素の輸出ルートとしても検討されており、この点からも注目されることです。

(以上)